

坂田 謙司教授 略歴と業績

I. 略 歴

1959年4月	東京に生まれる
2000年3月	関西大学総合情報学研究科博士課程前期課程修了
2004年3月	中京大学社会学研究科博士課程後期課程修了
2004年4月	立命館大学産業社会学部助教授
2006年4月	立命館大学産業社会学部教授
2025年3月	立命館大学定年退職
2025年4月	立命館大学特別任用教授・名誉教授

(主な学内役職歴)

2006年4月～2007年3月	産業社会学部 学生主事
2008年4月～2010年3月	産業社会学部 専攻長（メディア社会専攻）
2012年4月～2013年9月	サービスラーニング副センター長
2013年9月～2016年3月	サービスラーニングセンター長

II. 専門分野

専門分野 社会学 音声メディアの社会史

担当科目 音声メディア論, メディア社会専門特殊講義, メディア社会研究

学 位 博士（社会学）

研究課題 世代間交流における地域ラジオの活用, 地域とラジオの接点は何か, 地域独自の音声メディアの歴史を掘り起こす, 記憶共有と地域ラジオの接点

III. 主な研究業績

著 書

1. (単著)『「声」の有線メディア史：共同聴取から有線放送電話を巡る「メディアの生涯」』
2. (共著)「地域FM局の活動から見た公共放送への期待」
3. (単著)非営利放送とは何か 市民が創るメディア「放送の多様性から見る営利／非営利」
4. (共著)「北海道の地方博覧会 中央と地方の眼差しの交差」『博覧の世紀』
5. (共著)「メディア遊びとミニFM マイナーメディアの文化論」『メディア文化を社会学する』
6. (共著)『「反戦」と「好戦」のポピュラー・カルチャー ―メディア／ジェンダー／ツーリズム―』
「プラモデルと戦争の『知』 ―『死の不在』とかつこよさ」
7. (単著)「メディアは、誰が、なぜ生み出すのか」『はじめてのメディア研究』

8. (共著)「電話リテラシーの社会史 —電話のマナー教育は、何を伝えたのか?—」『メディア・リテラシーの諸相：表象・システム・ジャーナリズム』
9. (単著)『「音」と「声」の社会史 —見えない音と社会のつながりを観る—』

論文

1. (単著)「草創期くラジオの「姿」> —婦人雑誌が伝えた家庭生活とラジオの関係—」
2. (単著)「コミュニティFMのインターネット放送 —インターネット時代における地域メディアの新しい関係—」
3. (単著)「『声』の自主メディア生成のダイナミクス —<メディアの生涯>から見た共同聴取、有線放送電話、ミニFM、コミュニティFM—」
4. (単著)「現代に通じるラジオの原点とは—想像力のメディアが持つ可能性を探る—」
5. (単著)「コミュニティFMを巡る研究視点の再整理—営利・非営利を超えた議論活性化のための一考察—」
6. (単著)「高齢化社会における安心・安全と地域メディア —ヒューマンセーフティによる安心・安全問題への社会的アプローチ—」
7. (単著)「radiko の登場と『ラジオ携帯』の意味変容—ラジオの移動から遍在へ—」
8. (単著)「与那国島民の台湾テレビ電波による東京オリンピック視聴の意味考察」
9. (共著)「東北被災地大学調査」報告
10. (共著)「アメリカ2大学における地域連携学修実践および体験型メディア教育実践 St.Olaf College, Ohio University 調査」報告
11. (単著)「戦後草創期ローカル放送の成立家庭と地域メディア —NHK北見放送局と有線放送の協力関係が目指したもの—」
12. (単著)「ラジオ番組制作はメディア・リテラシー学習でどのように活かせるか —ラジオとメディア教育接合の可能性と課題—」
13. (単著)「街頭放送の社会史 —北海道の街頭放送と社会の関係—」
14. (単著)「限定された空間とメディアの社会史研究に向けて —刑務所と「新聞」「ラジオ」はどのような関係を結んできたのか—」
15. (単著)「地域の人びとの欲求がメディアを作る —ローカルな音声メディア史からみる「声」の存在—」

Ⅳ. 社会における活動

2010年—2022年 大阪のラジオ局「FM802」番組審議会委員長

以上